

ON AIR

NO. **94**

放送大学通信 オン・エア

発行月 平成21年6月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111(代)



CONTENTS

| | |
|--------------------|----|
| 平成20年度学位記授与式 | 1 |
| 第1回学生エッセイコンテスト | 5 |
| 平成21年度新入学生アンケート | 6 |
| 平成21年度学部・大学院開設科目紹介 | 8 |
| 学習センターだより | 12 |
| サークルだより | 14 |
| 同窓会・卒業生だより | 15 |
| 退任・就任のご挨拶 | 16 |
| エッセイコンテスト最優秀賞作品 | 19 |
| インフォメーション | 20 |

学位記授与式が行われました

平成21年3月28日、2008(平成20年度)学位記授与式が、NHKホールにおいて挙行されました。当日は学部卒業生と大学院修了生と同伴者をあわせて、大勢の方々が出席いたしました。学歌演奏、学長式辞、塩谷文部科学大臣並びに鈴木総務大臣政務官からの祝辞に引き続き、卒業生・修了生総代による謝辞で閉式となりました。

学長式辞

学長 石 弘光

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。教職員一同を代表して、心よりお祝い申し上げます。

桜の花もほころび、春の訪れも告げられました。今日この日に、文部科学大臣、総務大臣政務官をはじめ多数のご来賓の方々をお迎えし、このNHKホールにおきまして、かくも盛大な学位記授与式を挙行できますことは、このうえもない喜びであります。

本日は、北は北海道から南は沖縄まで、2000名を超える方々がお集まりです。卒業生の皆さんのみならず、これまで皆さんを支えてくださいましたご家族、ご友人の方にも多数お越しいただいていると存じます。どうか、皆さん全員で今日の卒業の喜びを分かち合ってくださいと思います。

卒業生の皆さんの胸中を去来する思いは、いま何でしょうか。おそらく、これまでの長くて厳しい道のりと、それを克服した喜びでしょう。厳しさが長かったほど、その喜びは大きいと思われまます。どうかご自身で、「自分をほめてやってください。」

放送大学は創立以来、25年間の歳月を経て、今日のような姿にまで成長してきました。TV、ラジオ、



最近では一部インターネットを用いて、遠隔教育の成果を広く上げております。まさに、生涯学習の教育機関として、日本のみならず世界においても、社会的に確立された存在になっております。放送大学は、創立以来、学部・大学院を合わせて約5万5000人の卒業生を世に出してきました。本日、めでたく卒業を迎えられた皆さんも、その卒業生の数に新たに加わる訳です。その歴史と、これまでに多くの先輩が辿った足跡に思いをはせて下さい。

後ほど表彰いたしますが、本年度も4名の方がグランドスラム、つまり6つある専攻をすべて終了し卒業されます。最高齢者は81歳、最年少者は68歳、残りのお二人も80歳と70歳というご年齢の方々です。生涯学習を標榜する放送大学に、まさにふさわしい快挙であります。



石弘光
放送大学学長



塩谷立
文部科学大臣



鈴木淳司
総務大臣政務官



さて皆さんがこの放送大学で学ばれている間、われわれの身の周りで実に様々なことが起っています。激動する時代に、われわれは身を置いているといっても過言でないでしょう。アメリカの金融危機をきっかけに、日本のみならず世界は「100年に1度と言われる経済不況」に突入しています。昨年暮れから、日本経済は自動車、家電などの輸出不振をうけ、国内生産は大減少に転じ、崖から落ちるように急激な景気後退におち入っています。おそらく、戦後最大の不況と言えましょう。この結果、暮れから正月にかけて「派遣ぎり」と称される大量の失業者が冬の寒空に放りだされるという痛ましい事態も生じたのです。その一方で、地球規模の環境汚染が年々、その勢いを増しています。地球温暖化の影響は、異常気象などを通しわれわれの日常生活をも確実におびやかし始めています。地球温暖化は、人類の産業革命以降の経済活動、つまり大量生産、大量消費、大量廃棄から生み出されていると考えられていますから、われわれの責任も重大になります。

実に目を将来に転じると、日本は人口減少時代に突入すると共に、世界に冠たる高齢社会を迎えることとなります。ブラジル、ロシア、インド、中国のいわゆるBRICs諸国の追い上げもあり、半世紀後の日本が世界においてどんな地位にあるのか、予想も困難な状況にあります。

このような激動の時代、またその先が見え難い時代に、皆さんは放送大学で学業を収められ、本日でめでたく自然科学、社会科学、人文科学の各分野で学士号、修士号を修得されたわけです。

皆さんは大学で学んだ成果を生かし、新しい人生に踏み出していただきたいと思います。その際、どんな心構えを持つべきでしょうか。私はこの機会を利用して、特に次の2点を皆さんに申し上げたいと思います。

まず第1は、皆さんが大学で身に付けた知識と学

問をこれからの社会にどう生かすかということです。大学における学問の内容も水準も、ますます高度化しております。それらの豊かな知識と学問を身に付けられた皆さんは、独り自分の足元のみを見つめるのではなく、広く社会のあり方に能動的に働きかけ、その進むべき方向を規定するという役割が期待されているのです。その時、皆さんが大学で修得した知識を生かし、学問を生かし、具体的に何を達成しようとするのかが問われてくるでしょう。

ここで私は、皆さんに「志を高くもて」と言いたいと思います。志を高くとは、どんなことかと次に問われてくるでしょう。これに関しては、人は様々な答を用意するかもしれません。しかし、ここで私は皆さんに対し申し上げたいことは、自分のものの考え方、自分のとる行動の姿勢を、たえず社会への還元、公共への貢献と結び付ける努力を怠ってはならないということです。

たとえば、より公正な社会システムを作るために、目下大きな社会問題となっている格差社会をどう是正するか、自分なりに考え行動をとることでしょう。またこのように社会全般に関することでも、自分の住む地域、あるいは所属する組織の一層の発展などを大切なことと考えるのも重要な課題です。また省エネ、環境にやさしい日常生活など、具体的に行動をすることが、ひとつの例でしょう。

第2に、申し上げたいことはこの学ぶということを生涯、持ち続けていただきたいということです。大学で学んだことは、卒業後に忘れ去られ往々にして一過性のものになることがあります。これでは、何のために放送大学で、知識の修得と学問に励んだかが分からなくなります。卒業後、大学と完全に縁が切れる方もまた再入学して更に勉学を本学で続けられる方も、どうかこれまで学んできたものをより一層深め、また高める努力をしていただきたいと思います。

皆さんは、何事かを胸の内に秘め、志を遂げよう

と放送大学の門をくぐられたのでしょうか。いま卒業という所期の目標を達成されましたが、今後とも大学で学んだことを実り豊かなものにし、真に自分のものとして下さい。

かかる点、能の大成者世阿弥が、600年ほど前に書いた『風姿花伝』（通称、「花伝書」）の中の教えが参考になります。この教えは単に能を芸術論として論評したのではなく、すべての仕事に共通する探求の精神の指針として、ひいては人生をいかによく生きるかの指針として、現代に住むわれわれに示唆することが極めて大きいといえます。

世阿弥は、能の芸によって実践されるべき美しいものを「花」と呼んでいます。そして、その「花」には「時分の花」と「真の花」とがあると述べています。「時分の花」とは修業をしある年齢に達すれば自然に現れるが、しっかりと身に付けていないだけ、その時期が過ぎれば失われてしまうというものです。それに対し、「真の花」は稽古と工夫の積み重ねによって得られるもので、自分の中にしっかりと根強いもので生涯決して失われることがないというものです。

本日、放送大学を卒業される皆さんには是非、これまで培った学びを「真の花」として真から自分のものとしていただきたい。卒業に必要な単位を取得し、それでいいと学んだ成果に満足し、そのままにして

謝辞

教養学部卒業生代表
社会と経済専攻 **上野 秋雄**

年齢、職業、生活している地域も、また、入学した動機、学習環境も異なり、自主学习が基本である私たちは、さまざまな状況の中での勉学において、幾度となく挫折しそうな心を叱咤しながらも、本日、この良き日を迎え卒業できますのは、学長先生はじめ諸先生方並びに職員の皆様のお陰と心より感謝を申し上げます。

私は、身近にある地域社会について知識を深めたいと思い、平成十五年十月に放送大学へ入学いたしました。実際に学習を始めてみますと、仕事と学習の両立に不安を感じながらの日々でした。このような状況の中、幅広い世代層や色々な職業の学友との交流のなかから、多くの学友達も厳しい学習環境の中で、同じような体験を乗り越えてきたことを知り、早起き学習を実践するなどにより、次第に仕事との両立にも慣れ、思った以上のペースで学習を進めることができました。三年目になると、卒業研究を履修するかどうか悩みましたが、「学習の集大成の意味からも、卒業

しまうと世阿弥のいう「時分の花」を一時期、咲かせるだけになります。

よく言われるように、学位授与式は英語で「始まり」を意味するCommencementといわれます。これは、卒業は終わりではなく、人生のスタートである考えにもとづくものです。生涯学び続ける決意を新たに、本日皆さん各自、選んだ方向に旅立って下さい。

最後になりましたが、本年度限りで幕張の本校にご勤務の7名の先生と学習センターの所長の11名の先生が、定年のため本学を退職されます。いま先生方は、この卒業式にご出席です。これまでのご指導、学恩に感謝し、満堂の拍手で先生方をお送りしたいと思います。

さて卒業生の皆さんにとって本日以降、放送大学は皆さんの母校となるわけです。どうか皆さんの熱い母校愛によって、今後も放送大学を支えていただきたいと思います。放送大学も、冒頭述べましたように、創立以来25年間に着実に成長し、日本において生涯学習機関として確固たる地位を築き上げてきました。この4月から新たな1/4世紀が始まります。

放送大学は卒業生、在校生の皆さんと力を合わせ、Action Plan 2008で宣言したように、「世界に羽ばたく遠隔教育の殿堂」を目指して頑張りたいと思います。

皆さんのこれからのご健闘、ご健勝を心から祈って学長式辞を終えることにします。

研究を履修したほうが、達成感はあるし思い出に残る」と勧められ、一年間かけて卒業研究だけに専念することとし、履修を決心しました。卒業研究のテーマを考えるにあたり、当時、私が在住する県で、二



市七町一村による市町村合併によって、新たな二つの市が誕生しました。ところが、農業集落の住民からは「山間地に所在する小規模集落は大丈夫だろうか」との発言を耳にしたことがきっかけとなり、私は、卒業研究のテーマを「農山村集落を存続させることができるのか」と決めました。研究の準備段階では、山形大学、県立、学習センターなどの図書館を利用し、研究に必要な文献を収集整理しました。本格的な研究が始まった四月からは、県庁を始め、対象町村役場を訪問し、集落資料を収集しましたが、ある町村役場の総務課長からは、「君達学生が集落に入り込んで、住民に不安を煽らないでくれ」と叱責を頂きましたが、何度か

訪問するうち理解され、協力していただけるようになりました。各集落では、聴き取り調査を行ない集落の実態などを収集しましたが、ここでも、ある住民からは「私たちはここで暮らすしかないのです」と云われ、研究テーマとの葛藤に悩みながらの執筆作業になりました。研究ゼミでは、テレビ会議システムを利用して、充実した指導を受けて論文を完成することができました。また、学部の卒業研究実施中に大学院のゼミ合宿のオブザーバーとして参加する機会を許され、研究交流を深めることができましたことは、私の卒業研究にたいへん貴重な体験となりました。卒業研究によって、現在、農業集落が抱えている幅広い問題点などを知ることとなり、農業集落の存続には、「農家の平均世帯人員が多いこと」と「二世帯、三世帯の後継者が年齢別に存在すること」が重要であるとの結論を得ることがで

謝辞

大学院修了生代表 内藤 理佳
総合文化プログラム 文化情報科学群専攻

「今、大学院で学びたい。」そう強く願い、私が放送大学大学院の願書を提出したのは、実は、出産を4ヶ月後に控えた2005年の夏でした。そして、秋も深まる11月半ば、二次試験会場を訪れた頃にはすでに臨月に近く、大きなお腹が恥ずかしくてコートで隠しながら面接を受けたことを思い出します。

当時、私は在日ポルトガル大使館でポルトガル文化を日本に紹介する仕事についていました。高校時代のポルトガル留学をきっかけに、大学でもポルトガル語を専攻しながら、語学修得以外に明確な目標を見出せないまま学部を卒業してしまった私は、いつか大学院でポルトガルに関わる研究をしたい、と考えていました。大学時代の友人が家庭と仕事を両立しながら放送大学大学院に学んでいたことから、学ぶなら放送大学と決めてはいましたが、さまざまな業務を抱える忙しい毎日の中で、忙しさを理由にその一歩を踏み出せないまま数年が経過してしまいました。思いがけず新しい命を授かることがわかったとき、改めて自分自身に向き合い、「今思い切って進学しなければ、この先ずっと、子育てや仕事を理由に真剣に学び直す機会を失ってしまうかもしれない」と思い、ついに進学を決意しました。無事出産を終えて3ヶ月が過ぎた2006年の春、仕事復帰とともに放送大学の門をくぐることができました。漠然とポルトガルをテーマに考えていた私でしたが、ゼミの指導教授である本多俊和先生のアドバイスにより、1999年に中国に返還されるまで約4世紀半にわたってポルトガルの統治下にあったマカオに暮らす「ポルトガル人の子孫たち」を研究対象とし、彼らのエスニック・アイデンティティをめぐる問題を研究テーマとしました。

こうして念願の大学院生活を開始した私でしたが、すぐに厳しい現実が待っていました。仕事と家事の間隙を縫っ

きたことは、履修の貴重な成果となりました。卒業研究の審査終了後に、指導してくださった林敏彦先生から「よく精進されました。これからも勉強を続けてください」とのメールをいただいたときには、論文の提出までの苦労を思い、ご指導への感謝と達成感でいっぱいでした。

今後は、オブザーバーとして参加させていただいたゼミ合宿での研究交流が学習意欲となり、放送大学で学んだ多くのことを生かし、引き続き、大学院の修士選科生として、地域に関わることを更に学んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、学ぼうとする私たちの思いを汲み取り、常に最善を尽くしてくださいました諸先生方、職員の皆様、温かく励ましてくれた学友、仕事仲間、家族に心から感謝するとともに、放送大学の益々のご発展とご臨席の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げて、謝辞といたします。

て放送授業を受講し、修士論文に取り組むことは想像以上に難しいものでした。放送授業は二年間でなんとか必要単位を取得することができましたが、修士論文執筆にはマカオでのフィールドワークが必要であり、その実現のために一年間の休学を余儀なくされました。仕事と子育てと学業の「三足のわらじ」の生活を送ることなど、自分のような者には無理だったのかもしれない、と不安と焦りだけが募る時期もありました。



そんな私を励ましてくださったのが、本多先生と助手の方々、ゼミの仲間、友人や同僚でした。先生からは、何度となく「焦ってはいけない。自分のできる形で無理せず少しずつ進んでいけばよい」という激励と同時に、ご丁寧なご指導をいただきました。そして、何よりこの三年間、ずっと私を支えてくれた家族の存在があっこそ、最終的にマカオでのフィールドワークを実現し、調査結果をもとに論文をまとめあげることができました。この場を借りて、お世話になった全ての方々に心からの感謝を捧げます。

そんな私を励ましてくださったのが、本多先生と助手の方々、ゼミの仲間、友人や同僚でした。先生からは、何度となく「焦ってはいけない。自分のできる形で無理せず少しずつ進んでいけばよい」という激励と同時に、ご丁寧なご指導をいただきました。そして、何よりこの三年間、ずっと私を支えてくれた家族の存在があっこそ、最終的にマカオでのフィールドワークを実現し、調査結果をもとに論文をまとめあげることができました。この場を借りて、お世話になった全ての方々に心からの感謝を捧げます。

私は現在、ポルトガル語の非常勤講師として大学の教壇に立っています。教員としてのキャリアはまだ浅く、悩むことも多い毎日ですが、放送大学の先生方のきめ細やかなご指導や、わかりやすい放送授業の構成・進行から学んだものが、私にとって大きな糧となっています。

さまざまなバックグラウンドを持ちながら、「今、大学院で学びたい」という同じ気持ちのもとに集まった私たちは、今日、大学院を修了するとともに、新たなスタートを切ろうとしています。改めて在学中お世話になった先生方、職員の皆様に御礼申し上げるとともに、ご臨席の皆様のご多幸をお祈りし、修了生を代表して謝辞の言葉とさせていただきます。

放送大学 学生エッセイ コンテスト

エッセイコンテスト実行委員長・同選考委員
自然と環境 教授

熊原 啓作



放送大学学生エッセイコンテストが行われ、その優秀作品が選ばれました。その経緯と優秀作品を報告します。

放送大学の学生には、自分の考えを発表したいと思っている方が多いと聞くのですが、そのような場がありません。多様な学生が集まっている放送大学において、他の学生がどのような環境で、そしてどのような思いで学んでいるのかを知ることは学生にとって有益ではないか。また学習センター等で日頃から学生と接する人を除けば、教職員が学生の思いを知る機会是非常に限られたものです。多くの教職員も、統計数字だけではなく、学生の実像をもっと知りたいと思っています。そういう多くの大学構成員の思いが、このエッセイコンテストという学生の声を伝える場の実現へ後押しになりました。

放送大学学生委員会のもとに実行委員会と選考委員会を設置し、「2008年放送大学エッセイコンテスト」として放送大学全学生を対象に、第1回の募集が2008年7月から10月まで約3ヶ月半行われました。第1回のテーマは「学びと私の生活」とし、2000字以内のオリジナル作品を募集しました。

応募総数65点で男性40人女性25人の応募がありました。年齢は23歳から85歳まで広がり50代までが33人、60歳以上が32人であり、80代の方は4人いらっしゃいました。所属学習センターも北海道から九州まで28の学習センターであり、ほぼ万遍なく各層の声が寄せられたものと思います。

選考は2段階審査を行い実行委員会で22点に絞り、6人からなる選考委員会で優秀作品を選びました。応募作品はいずれも力作で、学生の多様さが反映されていて、単純な比較ができないので絞り込んで行くのは大変苦しかったです。それぞれの選考委員が採点した結果を集計して優秀作品を選びました。点を集めたのは心を打つ内容でさわやかな読後感が残るものであったように思います。

入賞者には賞状と副賞を差し上げました。図らずも最優秀賞と優秀賞は女性だけとなりました。佳作以上の作

品は放送大学ホームページで読むことができます。(放送大学ホームページ：<http://www.u-air.ac.jp/>)

2009年度に第2回のエッセイコンテストが予定されています。募集が始まりましたら多くの方の応募をお願いいたします。

| 受賞者 | 作品名 | 学習センター |
|-------------|------------------|---------|
| 最優秀賞 | | |
| 増原 久子 | 『卒業研究』は広がっていった | 島根 |
| 優秀賞 | | |
| 石黒 千絵 | 待っていてくれた場所 | 宮城 |
| 寺澤しのぶ | 終わりは、始まり | 北海道 |
| ルー・ヨーク・フォン | 放送大学は私にとって大切な居場所 | 埼玉 |
| 佳作 | | |
| 伊藤 宏道 | 目標をもつこと | 東京多摩 |
| 尾仲 敏郎 | 放送大学で学び続けて | 姫路サテライト |
| 加藤 都 | 学ぶことが今嬉しい! | 鹿児島 |
| 河瀬 絹代 | 私にとっての放送大学とは | 香川 |
| 黒川 信弘 | 目標を持つ喜び 一息子とともに | 京都 |
| 佐久間 正弘 | 放送大学で最高の贅沢を… | 福島 |
| 重本 俊明 | 放送大学と畑 | 香川 |

※各賞毎の氏名は50音順です。※学習センターは応募時のものです。

講評

最優秀賞「卒業研究は広がっていった」増原久子さん

社会的に活躍してこられた方が、年齢にまけず真摯に学習され、研究されたことを社会で生かしておられる。それを読みやすい文章で見事にまとめられた。そこが審査で評価されました。今は亡き入院中のご主人と卒業証書を手に喜びを分かち合っただけは感動的です。

優秀賞「待っていてくれた場所」石黒千絵さん

結婚、学習センターのない遠方への引越し、出産、子育て、と環境が変化するなか学び続けてきた方です。文章の中に勉強する喜びがあふれている作品です。インプットするだけでなく、ふさわしい場に、ふさわしい形でアウトプットもできる人間になりたいとこれからの希望を述べておられて、われわれもこういう方の期待に応えられる放送大学にしていかなければならないと思いました。

優秀賞「終わりは、始まり」寺澤しのぶさん

エッセイコンテスト募集期間中の2008年10月に卒業された方です。卒論のつもりでこのエッセイを書いたそうです。大病を患い再発の不安にとりつかれていたのが、ご主人のすすめで放送大学で学び始めたことによって救われ、大学では死について深く考えられたそうです。困難を乗り越え卒業にこぎつけ、充実した達成感であふれています。これからも学びを続けると述べておられますが、がんばって下さいと応援したくなります。

優秀賞「放送大学は私にとって大切な居場所」ルー・ヨーク・フォンさん

マレーシア出身の方の作品です。彼女は日本にいられて知識は力だということをおられたそうです。放送大学で学びたいと思いつつながら子育てに追われていたのが、お嬢さんの大学受験勉強の姿をみて、自分も勉強しようとして実行に移されました。単位認定試験の準備のために、本部にあるセミナーハウスに一週間泊りこんで勉強し、ほぼ全科目合格されたそうです。読んだときその学習に対する情熱に頭が下がる思いがしました。

※最優秀賞 増原久子さんのエッセイは、19ページに掲載しています。

今春新入学の「正看護師さん」100人に聞きました

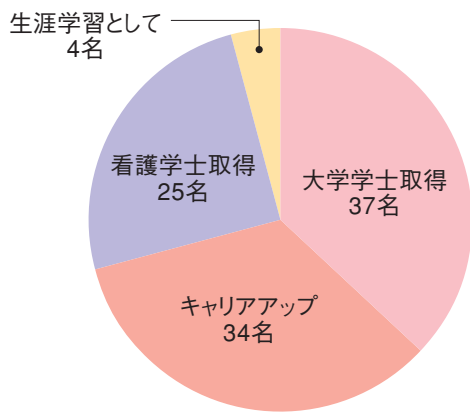
2008年に放送大学が25周年を経て、「ON AIR」では「放送大学への期待」などをテーマに「在学生の座談会」(92号)、「外部有識者の座談会」(93号)と在学生、外部の方々からの声を掲載してまいりました。

本年度は「放送大学の魅力」と題し、今年4月新たに入学された学生の声をお届けしていきます。「入学の目的」、「今後の道・夢」、「入学の理由」などについて電話によるアンケートを行います。

本号では入学者の約15%という大きなシェアを占める「看護師等」の職業の方で、特に最近増加が目立つ「正看護師」の方々100人に聞きました。

看護師という極めてお忙しい職業の方々、さらに「プラス・アルファ」を求めて放送大学に入学する目的などについてお答えいただきました。すべての皆さんが丁寧で、熱っぽく語っていただいたのが大変印象的で、大学としてもしっかり支援していく必要性を改めて強く感じます。

1 放送大学への入学目的



- まず入学の目的ですが、100名のうち「大学学士取得」が37名、「看護学士取得^{*}」が25名で、合わせて62名の方が、大学卒業資格を目指しています。
- 何らかの資格取得・レベルアップ等、いわゆる「キャリアアップ」を目指す方が34名で、全体の1/3を占めています。
- 学士取得目的の方には「大卒の看護師が周りに多くなっている」「より教養を高めたい、今後の選択肢を広めたい」「病院長からすすめられた」等さまざまな声があり、看護師の方々に大学入学希望が増えている現況が浮かび上がります。

^{*}放送大学の単位を修得し、学位授与機構の審査を経て看護学士の学位を取得するもの。

2 今後の道・夢・目標

(複数回答あり)

| | |
|----------------------------|-----|
| 1 大学院進学 | 23名 |
| 2 臨床心理士をはじめ、心理学の勉強をしたい | 19名 |
| 3 教員として、各種学校で教えていきたい | 16名 |
| 4 福祉の資格を取得して、福祉関連で働きたい | 10名 |
| 5 生涯学習を続けていきたい | 7名 |
| 6 助産師として働きたい | 7名 |
| 7 現在の仕事から、いろいろと事業等を広げていきたい | 5名 |
| 8 その他「認定看護師、保健師になりたい」など | 24名 |

- トップの項目は「大学院進学」でした。大学学士からさらに大学院を目指している方がこれほど多くおられることは、とても素晴らしいことであり、向上心の高いことがうかがわれます。専門的な研究を目指し、管理職・教育を担当していく上で、より上位の大学院で修士取得を必要としている様子がよく分かります。
- 次に多かったのが「臨床心理士を初めとした、心理学の勉強」を希望しているの方々です。看護における技術的なものに加え、「患者・家族の気持ちを理解したい」という必要性が多くなっていると感じます。
- 3番目が「教員」を目指しているの方々と、学校等で教えながら、看護職員などの養成をしていきたいという方も多数おられることがうかがわれます。
- 福祉関連の仕事に就きたい方は「ケア・マネージャー」を目指している方が多く、「患者」を福祉的な立場から支えていきたい意向が見られます。
- 「生涯学習」を志向する方は、地域のボランティア等に活かしたい、もしくは看護以外の幅広い知識を持ちたいとのことでした。
- さらに助産師の資格取得を目指している方が7名もおられ、現在の仕事から広がって、いろいろと事業に取り組みたい方も5名ほどおられます。
- この他にも、さまざまな夢や目標を持っておられる方が多く、認定看護師、保健師などの資格取得や、海外でのボランティアを希望されるなど、実に多様です。

3 放送大学への入学理由

(複数回答あり)

| | |
|--------------------------------|-----|
| 仕事と両立できる | 76名 |
| 費用が安い | 40名 |
| 学習センターがある | 26名 |
| 入学が容易 | 17名 |
| 科目の評価 | 16名 |
| その他「大学への評価(10名)」「先生への評価(9名)」など | |

- 「仕事と両立できる」ことが全体の約8割、「費用が安い」ことが4割と高く、この2つの項目が主な入学理由といえます。
- さらに「学習センターの存在」を挙げている方が26名もあり、「近くにある」ことが大事であるかがわかります。
- 「入学の容易さ」、「科目への評価」、「大学への評価」、「先生への評価」など、どこに放送大学の魅力を感じているかが、改めて理解できます。

4 放送大学入学の経緯

(複数回答あり)

| | |
|---------------------------------|-----|
| 周りに放送大学の在学生・卒業生がいた | 18名 |
| 友達・上司・教授・師長に薦められた | 17名 |
| 一度入学・卒業している | 17名 |
| 看護師関連の本に、一番と書かれていた | 8名 |
| 以前からテレビで知っていた | 3名 |
| その他「新聞の折り込みチラシを見て」「病院に資料があった」など | |

- 「周りに放送大学在学生・卒業生がいる」と「友達・上司・教授・師長に薦められた」を併せて35名の方が、いわゆる口コミなどで入学された方々で、看護師の皆さんに放送大学がよく浸透していることがわかります。
- また、大変ありがたいことですが、放送大学を一度卒業された方のリピートが多いことから、大学への評価が高いことが感じられます。

先輩看護師さんからひとこと

たに ひでこ

谷 秀公さん

准看護師として長年勤務してきた谷秀公さん。2006年に上尾中央看護専門学校通信制2年課程に入学。合わせて放送大学で看護系の科目を学び、取得した単位の一部を利用して昨年、看護師の国家資格を取得しました。現在は選科履修生として学び続けています。



●入学の目的

経験は何十年とありますが、准看護師と看護師の違いを考えると基礎の勉強がちょっと不足していると感じました。現在の医療、看護の分野は日々新しいことが求められています。現場を預かっている者として毎日勉強していかないと、少しずつでも何か情報を得たいと、そう思い、入学しました。

●これから

看護師の資格はとりあえずスタートライン。その上で、知識を広めていかないと。そこからまた積み重ねていきたいです。看護は毎日毎日が勉強だと思います。放送大学の授業を通じていろんな方と接する機会もありますので、自分のものとして学んでいきたいと思っています。

●谷さんにとって学ぶとは?

自分を磨くもの。いろんな知識を吸収することは、本当に必要なことだと感じています。

患者さんのためにも学び続けたいと思います。

しょうじ ゆみ

庄子 由美さん

2008年度総合文化プログラム環境システム環境科学群修了。東北大学病院重症病棟部勤務。研究テーマ「薬物治療における医療チーム内の情報伝達のマネジメントについて」



●入学の目的

今年で看護師生活26年目。現在、看護師長として看護師の指導や管理を行う立場にいます。臨床現場に入ってくる看護師は大卒、院卒が増えてきました。実践では負けないけれど、教える立場の自分が大卒でいいのかと思い始め、はじめは修士科目生で1年半くらい様子を見ました。

2001年～2005年の4年間、病院でゼネラルリスクマネージャー(GRM)＝医療安全管理者として勤務したのですが、この間に疑問に感じ、改善していく必要があると思うことを研究テーマにしました。

●大学院で学んで

患者さんに寄り添って現場にいるつもりだったのに、ゼミで思いもよらない視点から質問攻めに合ったり、考え方を否定されることもしばしばありました。看護師として患者さんへの伝え方をもっと工夫するべきだと患者さんと同じ立場のゼミ仲間からの意見を聞く中で、気づかされました。後輩の看護師に説明するとき、研究した内容が役に立っていると実感しています。

市民と社会を生きるために('09)

社会と産業 教授 高橋 和夫

学問には、抽象的な思考の部分と、お稽古事のように習慣とくり返しで身に付ける部分がある。後者の技術的な部分の入門として、この科目を構想した。いかにして資料を探すのか、論文はどう書くのか、口頭による発表の準備に何が必要か。学問の内容を教えるのではなく、学問の学び方を教える科目をと考えた。

たとえば主任講師の一人の高橋が直接に担当した分野は、プレゼンテーションである。つまり口頭発表の仕方である。ゼミや学会での発表、講演、テレビでのコメントの場などを想定して、事前の準備の重要性を印刷教材で強調した。特に講演に関しては、自らの体験を踏まえ、講演をする方の視線から、講演の主催者や司会者の心得に言及した。講演をする

方も聞く方も主催する方にも読んでいただきたい。印刷教材を補完するラジオ教材では、同じ内容を繰り返すのではなく、プロの話し家をスタジオに招いた。日本人は話し下手との評判を耳にする。しかし日本は豊かな話芸の伝統を育ててきた。この伝統から学ぼうとしないのは、怠慢である。そうした思いから女流の真打である古今亭菊千代師匠をスタジオに招き、話すという行為についての考えを語っていただいた。人様に話を聞いていただくという行為にかけるプロの熱意が、伝わってくる内容であった。スタジオで収録しながら、学生だけでなく教員にも聞いていただきたい。そんな思いがこみ上げてきた。



高橋 和夫 教授

人格心理学('09)

京都大学大学院 准教授
(放送大学 客員准教授) 大山 泰宏

心理学とは、言うまでもなく人間の心に関する学問です。しかし、人間の心の仕組みがどうなっているかということを知るだけの学問ではありません。どんなに心理学が発展しても、心にはけっして明らかにならない部分が残ります。したがって心理学は、心について分かったことを述べるだけでなく、分からない人間の心に対してどのように向き合い探求していくかという態度をも含んだ学問でなければなりません。

「人格心理学」でも、この立場を尊重しています。人間の営みは、驚きに満ちています。私たちは日々、人間の偉大さを感じたり卑小さを感じたりします。この科目では、現代を生きる私たちが日常の中で向かい合う「人格」、すなわち人間存在そのものをめぐる様々なテーマに対し、心理学の知見を使いつつ問うことを大切にしました。

各章では、心理学の人格理論を紹介しつつも、ジェンダーやテロリズム、「かたり」といったテーマを、歴史学や社会学の知見を引用して論じており、通常の心理学の範囲を越えているように見えるかもしれません。しかし履修者の方に望みたいのは、この科目で伝えられる知識を暗記することではありません。心理学という学問を主軸としながら、他のさまざまな学問上の知見も参照しつつ、人間存在について統合的に問いかけていく態度自体を学ぶことです。それこそが、現代の社会に生きる私たちに必要な知恵であり、それを少しでも伝えることが共通科目を担当する心理学者としての使命であるという思いから、みなさんにこの科目をお送りします。



大山 泰宏 准教授

現代の犯罪と刑罰（'09）

東京大学大学院 教授
（放送大学 客員教授） 大越 義久



大越 義久 教授

平成21年5月21日、裁判員制度が産声を上げる。この制度の下では、市民と職業裁判官が共同で、刑事裁判の判決を下すことになる。したがって、これまでのように「犯罪と刑罰」に疎い市民のままではいられない。刑事裁判についての基礎知識も必要になる。刑事法は、通常、大学の法学部では「刑法総論」、「刑法各論」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」という科目に分断され、それぞれの科目は別人によって講義されている。刑法総論では、刑法典の第1編「総則」の諸規定を軸に、各犯罪に共通の性質に焦点をあてて、犯罪とは何か、刑罰とは何か、を検討する。刑法各論では、刑法典の第2編「罪」の諸規定を主な対象にして、個別的な犯罪の成立要件・特性に検討を加える。刑事訴訟法では、捜査・起訴・刑事裁判等の手続はどうあるべきか、を検討する。刑事政策では、犯罪原因を科学的に究明し、犯罪防止対策に検討を加える。

しかし、「現実の犯罪と刑罰」は、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事政策と相互に分断された形で存在するのではない。また、あるべき姿を論じるためにも、「犯罪と刑罰の現実の姿」を知る必要がある。犯罪と刑罰は、刑事司法システムの中では相互に関連し、あるいは一連のものとして存在しているからである。

以上の認識から、「現代の犯罪と刑罰」の授業では、《犯罪→捜査機関による捜査→起訴→裁判→判決の確定→刑務所→出所》という一連のプロセスを視野に入れて、犯罪と刑罰について、講述することにした。本授業を通して、我が国の刑事司法システムの現実の姿を知り、それが抱える問題を考えてもらいたい。本授業はそのための素材は多く提供している。本授業が、「もの言う裁判員」の登場に、一助になれば幸いである。

西洋政治理論の伝統（'09）

社会と産業 准教授 山岡 龍一



山岡龍一准教授(右)と
長谷川利彦ディレクター(左)

古代ギリシアから20世紀アメリカにかけての、政治の理論化の営みを紹介する科目です。内容の選択や、印刷教材の叙述にあたって留意したのは、現代に生きるわたしたちが政治を理論化することを助けるような一つの伝統像を描き出したい、という希望でした。このことの成否は、どうか受講した皆さんが判断してください。

放送教材には、三つの形態をとるという工夫がこらしてあります。一つは、わたしが単独で講義をするもので、その際、古典からの引用の朗読を、本学アナウンサーの方々に手伝ってもらいました。二つ目は、特定の領域の専門家にゲスト出演していただき、わたしが質問しながら講義をするというものです。古代ギリシア、中世ヨーロッパ、近代フランス、

近現代ドイツについての話は、それ自体として大変興味深いものですから、ぜひともお聞きください。

三つ目の形態は、放送教材のディレクターである長谷川利彦さんが番組に参加して、いわば学生の立場から質問をし、それにわたしが答える、というものです。長谷川さんには、西洋政治理論の伝統における節目にあたる場面に登場してもらいました。そして学生の皆さんと同様、印刷教材と放送教材を全部学習し、政治理論について真剣に考えていただきました。普段はなかなか学生の姿が見えない放送大学の放送科目で、生の学生を目の前にしながら講義を作成することができたわけです。この経験が講義の内容に、うまく反映されていることを願っています。

実存と現象学の哲学 ('09)

東洋大学 教授
(放送大学 客員教授) 山口 一郎



山口 一郎 教授

この科目「実存と現象学の哲学」は、「出会い」をテーマにして、実存と現象学の哲学の特徴を明らかにしようとしてきました。自然科学的世界観が生活を支配しているかにみえる現代の生活において、哲学は、出会いの可能性と現実について、何を積極的に語るのでしょうか。出会いが実現するのは、個々人の生と死の全体が、汝 — 真実の相手であり、それは、人間であったり、自然であったり、精神的なものであったりします — への語りかけを通して、現実のものになる（実存する）ときである。このように主張するのが、出会いという「対話」による実存を語るM.ブーバーという哲学者です。逆に真の対話の難しさを強調するのが、フランスの現象学者、E.レヴィナスです。レヴィナスは、ブーバ

ーの語る「我と汝の関係」と汝を対象（「それ」と呼ばれます）とみなしている「我とその関係」に言及して、他者を諸性質の束としてしか関わり得ないようにしている人間の主観性の特性（現象学の創設者、E.フッサールの主張する「志向性」のレヴィナスによる規定）を浮き彫りにします。確かに、相手を諸性質の束としてしか見做さない間は、相手との出会いは実現しません。この現象学の呈示する、志向性という決定的に重要な見方の厳密な考察を通して、真の出会いの可能性が、自然科学の方法論を統合できる現象学の厳密な方法によって、確認することができるのです。

力と運動の物理 ('09)

自然と環境 教授 生井澤 寛 埼玉学習センター所長 毛利 信男



生井澤 寛 教授



毛利 信男 所長

「力と運動の物理」では、力の作用のうち、運動に関わる物理的側面を見て行きます。専門科目ですので、「初歩からの物理学 ('08)」と「物理の世界 ('07)」と微分・積分の基礎を学んでおいてください。

力学は、ニュートンによって基礎が作られて以来、物理にとどまらず、その体系化と数理化は、自然科学の広い分野でのお手本となっています。また力学で開発されたいろいろな基本的な概念、例えば、エネルギーや運動量、仕事、モーメント（トルク）、保存則などは、日常用語になっています。これらの概念の正しい意味を理解するとともに、それらがどのように形成されたかも見ていきましょう。

この科目の前半（1章から7章まで）では、力学の基礎を主に実験を通して見ていきます。力の概念を

しっかり把握し、力と運動がどう関わるかを実験に基づいて示そうと努めました。独自の工夫で作った装置だけでなく、皆さんが身の回りで手に入れられ、自分で作れるものも示しましたので、自分でも実験しましょう。印刷教材も、放送教材を欠かさずきちんと聴講することを前提に作ってあります。両方を合わせて学んでください。

後半では、力と運動方程式の拡張と一般化を試み、解析力学まで進みます。解析的な扱いをしますので、少し難しいかも知れませんが、具体例や課題を多く取り入れましたので、一步一步進んでください。解析力学は、現代物理の柱の一つである量子力学へと進むための基礎ですので、是非理解しましょう。

看護ケアの倫理学('09)

生活健康科学プログラム 教授 高崎 絹子



高崎 絹子 教授

わが国では、近年、医療倫理に対する関心が急速に高まり、医療実践の場ではインフォームドコンセント、患者のQOL、守秘義務、個人情報保護などの用語が、日常的に話題にされるようになってきました。また、一般の人々の健康への関心が高まるとともに、治療方法の選択、医療事故などに伴う患者や家族の権利やアドボカシー（一般的には権利擁護）の問題も社会的な話題になることが多くなってきました。こうした背景には、遺伝子治療に象徴される医療技術の急速な発展、医療費の高騰、ケア体制やチームケアのあり方、cureとcareのバランス、医療資源の配分などがあることはいまでもありません。

私の専門である高齢者看護学の領域では、身体的、精神的、社会的にも弱い立場に置かれがちな高齢者のアドボカシーやQOLに、特に配慮することが求められています。私がこのテーマに関心をもつきっかけとなったのは、30数年前に認知症高齢者の家族会

(当時は呆け老人をかかえる家族の会)の世話人として、教育のかたわらボランティア活動を始めたことです。その後、第24回(2004年)日本看護科学学会の学術集会長をつとめた際には、迷わず会長講演のテーマに「患者、病弱者のアドボカシーと看護の責務—高齢者虐待防止と研究支援ネットワークづくりを中心に—」を選び、看護職の役割とその重要性を強調しました。このような活動は、その後日本高齢者虐待防止学会を立ち上げ、「高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」の成立(2005年11月7日)に研究教育の立場からバックアップしたこと、さらに放送大学において「看護ケアにおける倫理学」を編集する動機となっています。

医療関係者以外の受講生には、医療を身近なテーマとして考えていただくきっかけになることを願っています。

人間発達論('09)

人間発達科学プログラム 教授 住田 正樹

山口大学准教授 (放送大学客員准教授) 田中 理絵



住田 正樹 教授



田中 理絵 准教授

この講義は、人間の生涯にわたる発達の過程を発達社会学の視点—特に社会的役割の視点—から分析しています。人間の生涯発達研究というと、これまでは生涯発達心理学が問題としてきました。その方法は人間の発達段階をいくつかに分けて、それぞれの段階の心身の特徴を明らかにするというものでした。しかし同じ発達段階に位置している人間であっても、その意識や行動には違いがあります。同じ青年期に位置していても、既に職業に就き家庭を持っている青年とまだ学生として勉学に励んでいる青年とでは当然のことながら意識や行動は異なるでしょう。それは社会的役割が異なるからです。ですから発達現象といっても心理学的方法だけで全てを説明することはできません。社会学的研究も必要です。また発達研究というと、こ

れまでは成人期に至るまでの、いわゆる上昇的変化の過程を中心に研究してきました。しかしこの講義では成人期以降の、下降的変化の過程にも比重をおきました。ユング(スイスの精神科医・分析心理学者)は40歳の中年期を「人生の正午」と呼び、人生の折り返し点としましたが、人生後半も長期にわたる連続的な変化の過程なのです。

この科目の受講生の方々が、中高年世代の方々であれば、これまでの自身の過去を振り返り、過去の出来事と重ねつつ講義を聴いていただきたいと思いますし、若い世代の方々であればこれからの自身の、将来の人生を考えながら聴いていただきたいと思います。

明るく元気な長崎学習センターにきてみんなね!!

長崎学習センターは、平成4年、長崎市に隣接する多良見町の民間施設を借用してスタートしました。当時を知る学生によれば、交通の不便さは多少あったが、大村湾岸の風光明媚の地で、時間がのどかに打ち過ぎる、良き学びの地であったということです。平成16年に、長崎市内の長崎大学文教キャンパスに、大学施設を借用して移転しました。その後、平成19年5月に長崎大学附属図書館との合築施設として、現在の長崎学習センターが建設され、放送大学の学生さんの学習活動・学生生活の拠点として、大いに活用されています。当学習センターでは、どの部屋にも使用目的に応じた最新の設備が整備されており、学生の皆さんの快適な学習環境が整えられ、また、学生相互間の交流もこれまで以上に円滑に図れるように学生生活環境も整えられています。このような素晴らしい環境の長崎学習センターに、現在、約1000人の学生さんが所属しておられます。



ています。

また、平成22年度開設のテレビ特別講義企画「近世長崎の翻訳システム」が採用され、まもなく番組制作が始まります。放送時には是非ご視聴ください。

学生たちの交流の場

テレビ、パソコン等と睨めっこをしながら学習している学生の学生生活に欠かせないのが、学生間相互の交流です。年1回実施している学生研修旅行は、日頃会うことのない学生たちと一緒に芸術や文化に親しみ、様々な情報交換を行う行事として人気があります。

学生サークルは、学友会、俳句クラブ、英語サークル、心理研究会があります。学友会では年に4回（うち2回は1泊）の研修旅行を開催しており、四季折々の景観を楽しむと共に貴重な情報交換の場となっています。俳句クラブでは年に2回の吟行会を行い、俳句創作に意欲を燃やしています。英語サークル及び心理研究会もそれぞれ「英語」、「こころ」に興味、関心をお持ちの方が親睦を深めながら楽しく活動しています。

リフレッシュルームでは学生のボランティアによりコーヒー等を提供しています。また、体重計及び血圧計も設置していますので、健康管理のためにも大いにご利用ください。

明るく元気な長崎学習センターにきてみんなね。職員一同まっとうっけんね。「長崎さるく^{*}幕末編」もよかよ。長崎の街ばさるいてみんなね。

※さるく…まちをぶらぶら歩くこと。



研修旅行

多彩な面接授業等

九州・沖縄ブロックでは平成18年度から一つの統一テーマを元に各学習センターが面接授業を行う「連携面接授業」を行っています。今年度は統一テーマ「九州・沖縄の風土と人」に基づき、長崎学習センターでは「向井去来-西の俳諧奉行-」を開講します。また、今年度は九州・沖縄ブロックが合同で行う「合同面接授業」が第2学期に開講されます。授業科目名は「対馬の歴史と史跡探訪」で、長崎県対馬の歴史についての講義、シンポジウム「国境の島、対馬から日本を考える」への参加、史跡探訪で構成され

長崎学習センター

長崎市文教町1-14(長崎大学文教キャンパス内) 〒852-8521
JR長崎駅前から路面電車、バスで約20分 電話:095-813-1317

発祥の誉れ東京世田谷学習センター

放送大学学園本部は東京学芸大学附属小学校のあと地（現在の当センターの場所）を仮住まいとして発足しました。本部が1985年に千葉県若葉区へ移転すると同時に、「東京第1学習センター」として当センターが発足し、来年で25周年を迎えます。同窓会は現在でも「東京第1同窓会」と称しています。旧青山師範附属小学校の建物として昭和11年に出来たものを補修しながら使っていますが、学習センターとしては広い敷地に樹木も多く、隣接する学芸大付属高校もあわせて、都心住宅地の中にある森に囲まれたキャンパスです。写真のようにテニスコートとその奥に体育館があり、テニスサークルだけで4つあります。



テニスサークルの活動

元小学校の教室を講義室（40人定員）としており、面接授業は少人数クラスが主となっています。反面、年間授業数は全国一の多さです。東横線学芸大学駅から徒歩で12～13分、または半蔵門線三軒茶屋駅からバスを利用して来ることが出来ます。

下馬祭をのぞいてみよう！



書道などサークル展示(体育館)



地学サークルの砂金採取デモ(教室展示)

施設の豊かさのおかげで、当センターは学生間（サークル）、ならびに学生教員間（ゼミ、研究会）の交流が盛んです。毎年、2学期の「入学者の集い」の日にあわせて、ミニ学園祭「下馬祭」を催します。書道、地学、音楽自主ゼミ、中国語、心の研究、写真、などのサークルが展示を披露する他、教員（鈴木、東、河合教授他）も参加している放送大学環境

研究会（独自のホームページあり）は太陽電池、電気自動車のデモンストレーションなどを行っています。公開講演会、テニス大会、野菜即売会、茶道サービスなども加わり、忙しい1日です。



電気自動車
(環境研究会中鉢氏と所長)



茶道サービス(和室)

地域との交流

地盤である南東京の区教育委員会との共催で、毎年10数回の公開講座（講師は岡崎准教授など専任教員が主）をセンター外で開いています。区の広報紙のおかげで数十人の聴衆が駆けつけます。センター内でも学生向け（「ふれあい講座」と称して講演後に講師との交流会を行います）、近隣住民向けに、合わせて5回程度の公開講座を開いています。写真は近隣住民向けに開いた公開講座の聴衆です。楽しそうに聞いている姿が見受けられます。近隣住民向けパソコン教室も好評です。



星准教授のセンター内講演に参加する地元聴衆

事務は明るく真剣に！

大勢の学生さん、非常勤講師の先生を相手に事務室では忙しそうに上原事務長以下職員が動き回っています。窓口に来てください、みなが朗らかに対応いたします。

東京世田谷学習センター

世田谷区下馬4-1-1 〒154-0002

東横線学芸大学駅西口徒歩15分 電話:03-5486-7701

みんなの興味を満足させるサークルに

秋田学習センター〈歴史・民族・文化を学ぶ会〉

秋田学習センターは秋田駅の東北に位置し、戦前からあった黒松が林立する秋田大学手形キャンパスの敷地内にあります。



秋田学習センターには、現在2つのサークルが活動しておりますが、その中の「歴史・民俗・文化を学ぶ会」のサークルを紹介したいと思います。

「歴史・民俗・文化を学ぶ会」は平成13年4月に発足し、満8年間の活動を積み重ねながら独自の歴史を作ってきました。会員は現在12名でサークルを構成しておりますが、新会員の加入が課題です。「入学者の集い」(4月、10月)にはパンフレットを配布しながらオリエンテーションの時間を利用して勧誘し、また例会や野外学習には誰でも参加していただき、会員と共に学びあえるように準会員制度をつくり、やがては会員になってもらえるようにとの思いはありますが、なかなか会員の増加にはならないようです。

現在の12名の会員は各自の専攻分野も違い、毎月の定例の勉強会ではバラエティーに富んだ発表がなされ、活気のある楽しい発表が展開されています。

サークル活動は、毎月1回の例会を開催し、会員は学習で興味を持たれたことや、新聞雑誌テレビなどマスコミで

話題性のある問題を自分なりに集約して話題を提供(発表)しております。

現在まで総計54件の話題提供がされました。また野外学習として春秋の年2回、史跡・古代遺跡・神社仏閣そして美術館・博物館・地方文化財の見学等で知識や見聞を広げております。

また年2回、機関紙(第16号)を発行し、会員相互の文章の冴えをみせていております。

「歴史・民俗・文化を学ぶ会」という名称のとおり、会員もまた広範なジャンルの持主の方々ばかりです。サークルの名称にとらわれずに、このサークルは「何でもあり」ということで、肩を張らずに仲間意識を感じながら、親睦を重点に活動しております。

(「歴史・民俗・文化を学ぶ会」仲間の一人 長谷川 栄一)



野外研修会(男鹿城跡)



研修旅行(平泉・毛越寺)

沖縄の貴重な伝統文化を伝えていきたい

沖縄学習センター〈琉舞サークル〉

琉舞サークルは、平成15年12月3日に団体の設立を許可され、今年で6年目を迎えました。

毎週火曜日午後7時から、沖縄学習センター5階の廊下で吹き抜けの窓(鏡?)に姿を映し、琉球舞踊の稽古に励んでおります。



メンバーは、ほとんどが50代で、稽古中は真剣そのものですが、休憩時には励まし合い、家族のことや学業等の情報交換を行い、練習後の楽しいひとときとなっています。

結成1年目は、琉球舞踊の基礎・基本となる「かぎやで風」に取り組み、技術の原点を学びました。この踊りは、琉球古典音楽の中で最もめでたい歌曲の振り付けであり、「背筋を伸ばし、堂々と目線は正面を見据え、手は大樹を抱く構え、体は波打たず、水の流れる如く移動する」踊り方です。

2年目からは、紅型衣装に憧れて、「四つ竹」に挑戦しました。誰もが一度は踊ってみたい憧れの古典女踊りです。他に、貫花・加那ヨー・笠踊りなど年々レベルアップしています。

サークルを熱心に指導して下さる新里先生をはじめ、結成のきっかけとなった玉城昭子元客員教授、学習センターの職員の皆様のサポートで今まで頑張ってきました。私たちの最大の目標は、3月の放送大学学位記授与式の終了後に開催される「卒業祝賀・謝恩パーティー」で四つ竹を披露することです。

自分達で踊り、琉球民謡を口ずさむことは、もっとも誇れる郷土の遺伝子だと思います。琉球舞踊は自信を持って相手に話せる沖縄の伝統文化です。皆様と出会ったとき、貴重な遺産を披露して大切に伝えていきたいと願っております。(「琉舞サークル」代表 呉屋 初枝)



琉舞サークルのメンバー

学位記授与式で四つ竹を演舞



念願の「高知同窓会」設立! 今年は室戸貫歩に挑戦!

高知同窓会会長 伊東 正明さん

高知学習センターが創立15周年を迎える本年、去る3月22日に設立総会を開催し「高知同窓会」が産声を上げました。会員数は当初の予定を上回り、設立総会時点で48名、その後の学位記授与式での新たな卒業生を加え更に増えてきております。

省みますと昨年11月以降5回の準備委員会を経て、なんとか設立の運びとなりましたが、準備委員は皆初めてのことで最初は右往左往したことでした。

事業面では初年度計画の目玉として、この秋に開催されます高知大学（空手道部）主催の室戸貫歩（高知学習センターの位置する高知大学朝倉キャンパスから室戸岬までの約100kmを、夜を徹して歩く過酷なレース）に高知同窓会として参加することを決めました。



役員集合写真

高知県の東部地域は高知学習センターの学びの友が少ない現状から、同窓会としてなんとか側面から放送大学の認知度を高める方策はないものかと思案した結果、是非挑戦



設立総会

しようと同関係者の意見が一致、徐々に盛り上がりを見せているところでもあります。とは申しまして100km歩行といえば並み大抵ではありません。ただ、放送大学の学習で培われた1科目1科目積み上げて行く精神には合致するものがあると確信し、取り組もうとしているところです。四国内の他センターからも参加の声が上がっており地元高知としては何とかやり遂げたいと思っております。

この際折角ですので他センターの学生、同窓生諸氏とも交流できればと考えておりますので、我と思わん方は一緒に歩いてみませんか。

先輩同窓会の皆様、よちよち歩きの「高知同窓会」を今後ともどうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

なお、同窓会設立に当たりましては、愛媛、香川両同窓会の会長はじめ役員の方々に大変お世話になりました。この場をお借りしまして心から御礼申し上げます。

新会員、毎日募集中! 「石川同窓会」

石川同窓会代表 荒井 福弘さん

石川同窓会の会員が、南北に長い土地で集合し、親睦、研鑽するには、時間的制約があるのが悩みです。本会は、会員相互が情報発信して学びの源（放送大学）を共有し会員1人1人の立場で生涯学習に取り組んでいます。また、何事も継続は苦しいので、息抜き立場から親睦も必要と感じており、春と秋の卒業式に合わせて学習センターと協力して公開講演会、懇親会、年何回かの各種研修会行事を行っています。

更に石川同窓会の特長は、「会員相互が情報発信」を編集の元とした会誌の発行、年2回の発行には会員全員が記者、写真家、原稿制作、校正、印刷、製本、発送をボランティア



同窓会会員の司会で学習センターと共催の公開講演会

ア精神で行います。大学で学んだ知識の1つの実践道場であると考えています。単なる情報の発信ならば、情報を吟味してタブロイド版かインターネットでの提供が有利です。石川



同窓会主催の卒業式・講演会後の手作り懇親会

同窓会発行の会誌『友垣』はA5サイズで48ページの冊子です。大学の教科書と一緒に持ち歩いて、本棚に並べられます。目につく度合いが大きいように、情報の増量を毎回考えています。学生の方、会員の方、一連の作業ボランティアは大歓迎いたします。

石川同窓会は、平成15年、当初56名で設立され現在会員145名(4月1日)です。順次会員数を増やしてきました。今年度より役員も新体制でのぞみ同窓会の全国化のなかでの立場（母校の発展のための寄与）と、石川同窓会の会員全員が結集して更なる発展が継続できる体制作り、活動を致します。学生の皆様、卒業後は同窓会にご入会ください。卒業して入会されていない方は「新会員毎日募集中!」です。

退任のごあいさつ

学生の主体性が支える放送大学

自然の理解 教授
環境システム科学群 木村 龍治



放送大学では、卒業研究にしろ、修士論文にしろ、学生が申請した研究テーマで、研究することができます。これは、当たり前のように見えて、かなりユニークなシステムのような気がします。一般の大学では、研究室ごとに主な研究テーマが決まっているので、学生は指導教員の専門に近い研究テーマを選ぶのが普通だからです。その結果、普通の大学では、学生が指導教員の専門寄りになるのに対して、放送大学では、指導教員が学生の興味をサポートしながら、それをさらに深めていく教育が必要になります。また、このようなシステムがうまくいくためには、学生側に、かなりの動機づけ (motivation) が必要です。私の在籍した5年間に、地球科学分野で、多くの学生さんが卒業研究や修士論文を完成させました。多くの学生さんは、職を持ちながら研究されていますから、自由時間の多い一般の大学の学生に比べて、かなり困難が多いと思うのですが、実に熱心に研究されたのに感動しました。第1期の修士を卒業した齋藤さんは高校の先生ですが、放送大学で修士を取得した後に、東京海洋大学の社会人大学院生になって、昨年9月に博士号を取得しました。他にも、地球科学関連で、放送大学の修士を終了した後に、他大学の博士課程に進学した方が何人もおられます。このようなことを考えると、放送大学は、学生の主体性によって支えられているような気がします。このような放送大学の特色を今後も大切にしていきたいと思っています。

就任のごあいさつ

就任あいさつ

社会と産業 教授
社会経営科学プログラム 來生 新



5月1日付で放送大学教授になりました來生 新きすぎ しんです。所属は「社会と産業コース」と「社会経営科学プログラム」です。前職は横浜国立大学理事・副学長で、同大学の経済学部・経済学研究科、国際経済法研究科、国際開発研究科、国際社会科学研究科に所属してきました。昭和22年生まれで、今年の7月で62歳になります。専門は法律学で、独占禁止法、公益事業規制法、産業政策関連法、日本の沿岸域の管理の海洋法を研究し、教育してきました。私の主要な関心は、政府と市場の役割分担を法律学的に研究することにあります。

第二次世界大戦直後の国家機能の全面的な壊滅状態から、昨年秋の世界的な金融制度の崩壊による今日の状況に至るまで、それぞれの時期において、わが国の「政府と市場のあるべき役割分担」についてさまざまな議論が展開され、それが法制度を変化させてきています。私は、このような戦後の日本社会の変遷を自分の人生と重ねながら、法制度の変化を研究することを職業にしてきました。

今後の日本社会の政府と市場の役割分担はいかにあるべきか、法制度を具体の素材にして、皆さんと一緒に研究をしていきたいと思っています。どうかよろしく。

就任あいさつ

人間と文化 准教授
文化情報学プログラム 井口 篤



みなさん、はじめまして。4月から新しく放送大学に赴任しました井口篤です。専門は中世の英文学です。14世紀から15世紀にかけてイングランドで書かれた宗教文学を主に研究しています。今年の1月にイングランドでの留学を終えて帰国し、この放送大学で教職をスタートするという幸運に恵まれました。

中世イングランドの文学というと、我々日本人には何の関連もなく、まったく異世界に属することのように思われる方も多いのではないかと思います。たしかに、中世のイングランドで書かれたことが私たちの日常生活に直接影響を与えることはないでしょう。しかし、私たちの住む世界からは到底かけ離れたもの、私たちの容易な理解を撥ね付けるものを想像し、それに共感を寄せることは、日本という(グローバリゼーションという状況にあってもなお)外の状況が見えにくい国に住んでいるからこそ重要なことだと考えています。一見私たちの問かけや対話への誘いを拒む他者一過去に異国で書かれたテキストに辛抱強く耳を傾けてみてください。それはやがてあなたにおずおずと魅惑的な言葉で語り始めるはずです。

近いうちにテレビ、ラジオ、そして教室でみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。よろしくご挨拶申し上げます。

新任学習センター所長

青森学習センター 雨森 道紘

(前弘前大学附属図書館長)

平成21年度より放送大学青森学習センターの所長となりました雨森道紘です。これまで、物理学から情報科学さらに電子情報工学など、基礎科学から応用工学の分野へと研究を進めてきました。その間に図書館長としての新しい企画をするなど、学生の創造性の開発などの教育支援を行ってきました。一般に物事を学びたい人達をさまざまな形で支援することには少なからず満足感があり、この仕事を引き受けたのもその気持ちが後押ししています。同じ思いの方々にお会いして仕事ができればと思っています。皆様どうぞよろしく願いいたします。



秋田学習センター 吉崎 克明

(前秋田大学医療技術短期大学部長)

この4月秋田学習センター所長に就任しました吉崎克明です。専門は「生理学」で、3月まで客員教員として学習センターに関わってきました。これからは学生の皆様が心底から学びをじっくり楽しめるよう、温かみのある学習センターの環境作りに専念しようと事務の方々、客員教授の先生とともに和をもって努力しているところです。低人口で高齢社会の秋田ですが、学問をするには落ち着きたい県です。今後とも宜しくお願い致します。



宮城学習センター 原 純輔

(前東北大学大学院文学研究科長)

放送大学は生涯学習社会の一翼を担う重要な存在であると考えて、授業科目「社会調査」「社会階層と不平等」を担当するなど、これまでさまざまな形で関わってきました。これからは、視聴学習や面接授業のお世話などの仕事が加わるようになります。また、なるべく身近で手軽に放送大学の授業を活用していただけるよう、県内市区町村の御協力を得ながら、視聴学習施設の増設などにも努力して行きたいと考えています。よろしく願いします。



福島学習センター 北村 寧

(前福島大学副学長)

4月初めの「入学者の集い」で、若い人から年配の人までの実際の学生の皆さんを目の当たりにし、やはり「学び」とは生涯にわたって続けるものなのだということを強く感じました。絶えざる学習こそ私たちが成長させる原動力であり、「生きる力」を与えてくれるものと確信します。旺盛な好奇心、高い志を持って、粘り強く勉学に励んでください。私も皆さんが所期の目的を達成できるよう精一杯お手伝いしたいと思います。



石川学習センター 上田 穰一

(前金沢大学教育学部附属高等学校長)

40年余り、金沢大学人間社会研究域学校教育系(金沢大学旧教育学部)で化学に携わっておりました。専門は無機分析化学で、水中微量金属の濃縮定量法の開発や身近な環境試料を用いた化学教材の開発等を行ってきました。石川学習センターは、加賀百万石の城下町金沢市の中心、金沢城・兼六園から南西に約4km、野々市町の金沢工業大学扇が丘キャンパス内にあり、とても明るい建物です。近くに来られた時は、気軽にお立ち寄り下さい。



新潟学習センター 増田 芳男

(前新潟大学理学部長)

4月から小島前所長の後任として新潟学習センター所長を拝命いたしました。よろしく願いいたします。まだ、放送大学や学習センターの事情がよく飲み込めず戸惑うことの多い毎日です。早く仕事に慣れ、一生懸命つとめたいと思います。2年前に定年を迎え、新潟大学理学部を退職いたしました。専門は物理化学で、「熱による固体の構造変化とその機構」、「水素吸蔵合金」等の研究に従事してきました。



群馬学習センター 白井 紘行

(前群馬大学理事・副学長)

群馬学習センター所長に就任した白井です。出身は香川県です。群馬大学の副学長(法人化後は理事も)を約7年5ヶ月勤めた後、放送大学にきました。群馬大学では、総務・財務担当理事を2年間、企画・教学担当を5年5ヶ月、また全副学長期間中、産学官連携・地域連携・大学広報も担当しました。これらの経験が放送大学の活動でも生かせればと願っています。専門は、宇宙工学の基礎部門で、極超音速流体力学、非平衡空気熱力学です。よろしく願いします。



東京足立学習センター 富永 典子

(前お茶の水女子大学いすみナーサリー施設長)

4月より東京足立学習センターの所長となりました。3月まではお茶の水女子大学で微細藻類の重金属耐性・蓄積性機構の研究をしていました。退職後は放送大学でこれまでとは違う分野を学ぶつもりでしたが、まさか所長になるとは思ってもいませんでした。目下所長の仕事で精一杯ですが、いつかは願っています。また、今年度から3年間、科研費「ミャンマー北部の少数民族の貧困追放・健康増進のための資源調査」が認められたので、年1回の調査を楽しみにしております。



神奈川学習センター 渡辺 慎介

(前横浜国立大学理事・副学長)

160名を超える新入生で満杯の「入学者の集い」。幅広い年齢層の人々が真剣な眼差しで席に着いている。その最前列に、体が不自由なため、ベッドに横たわる学生がいた。新学期が始まると、視聴学習室で父親と勉強する彼をたびたび見かける。不自由な体に鞭打って勉強する姿に自分の怠惰を思い知らされる。「他人は自分を映す鏡である」と、その集いで挨拶した私にとって、彼はまさに、自分の弱さを映す鏡である。放送大学の多様性を大切にしたい。



滋賀学習センター 佐藤 尚武

(前滋賀大学大学院教育学研究科長)

滋賀大学教育学部を定年退職し、滋賀学習センターに就任しました。これまでの教育研究においては、環境生理学を軸にからだ教育への生理学的アプローチを試みてきました。学校教育を主としていましたので、生涯学習に向けては新鮮さを抱えています。しばらくは手探り状態が続くと思いますが、滋賀の地域性を生かしたセンターづくりを目指したいと願っています。よろしく願い致します。



就任のごあいさつ

和歌山学習センター 橋本 卓爾

(前和歌山大学附属図書館長)

今年4月和歌山学習センターの所長に就任いたしました橋本卓爾です。世界的規模で経済・社会・環境問題等が深刻化し、先行き不透明な今こそ「知の力」と「協働の力」が求められています。こうした時に学習センターの所長に就任できたことを私に与えられた使命として捉え、微力ながら頑張っていきたいと決意しています。と同時に、私は縁、結、絆といった言葉が大好きです。見知らぬ人々が縁あって出会い、結びつきを強め、絆を深めていくことは本当に素晴らしいことです。和歌山学習センターを学びを縁にして結びつきと絆を深める場にしたいと考えています。



広島学習センター 二宮 皓

(前広島大学理事・副学長)

社会が予測のつかないスピードと方向性でもって急激に変化する時代にあつてどのように私たちは対処すればいいのか。一度知識や技能を習得すれば安心という時代は過ぎ、今や誰も想像できなかった問題や課題をどのように解決できるか、についての知恵や技術、あるいは新たな知が求められています。こうした予測不能な時代を生き抜くには、絶えず敏感な感性を保ちながら学び続けるほか、その術がないのかもしれない。放送大学広島学習センターもそうした新たな時代が求める「学び」に少しでもお応えできるように努力します。



宮崎学習センター 岡林 稔

(前宮崎大学理事・副学長)

前任者のご都合もあり急遽センター所長に任命されたので、詳しい内容はわからないまま辞令交付にのぞみ、新任所長への概要説明でその所掌事項のすべてを勉強することになった。その意味でも「創意工夫」に満ちた鹿児島学習センター所長の「新まい所長の一年」は何よりも教えられるところが多かった。この10日あまり就任挨拶に各所を回って気がついたのは、「放送大学」のことをよく知らない人の多さであった。一にも二にも「認知度の向上」にあい努めることを念頭に、まだ馴れない椅子の上に座ったまま、その方策に思いをめぐらせているところでありました。今後ともよろしく願いいたします。



新センターの紹介

メディア活用教育の可能性を追う ICT活用・遠隔教育センター

ICT活用・遠隔教育センター
センター長 加藤 浩

ICT活用・遠隔教育センター(略称CODE)は、平成21年4月に放送大学の附属機関として設立されました。前身は旧独立行政法人メディア教育開発センター(旧NIME)で、大学など高等教育機関のメディア活用教育の取り組みを支援してきました。

CODEは旧NIMEの取り組みを引き継ぎ、NIMEから移籍した29名の教員が、「放送大学のICT活用教育の推進」「わが国のICT活用教育を含めたメディア教育の振興」を主要な柱として、事業を展開します。

生涯学習の時代を迎え、働きながら学ぶ人、子育てをしながら学ぶ人、また知的好奇心や探究心を満たそうという中高年など、年齢も仕事も学ぶ目的もさまざまな人たちが大学で学ぶようになりました。学ぶ内容や目的だけでなく、学ぶ時間、学習環境が異なる人たちに質の高い教育を提供するには、多様なメディア、ICT(情報コミュニケーション技術)を上手に利用することが必要です。

CODEでは、放送で学ぶ学生が学習内容をより深く理解し、高い学習意欲を維持しながら学び続けられるような教材や資料、また快適な学習環境を提供するため、学習システムやデジタル教材の研究開発、ICTを活用した学習方法の研究を行っています。



教材開発(印刷教材と3Dコンテンツを合成させた例)

情報化が進み、グローバル化、知識集約化が急速に進んでいます。日本が世界とともに歩んでいくには、質の高い教育と学びやすい環境が必要です。世界の教育先進国はそのためにICT、インターネットを積極的に利用しています。CODEでは、海外の高等教育機関とのネットワークを生かし、先進国のICTやインターネットを活用した取り組みの情報を集め、日本の大学の実情、教育方法に適したICT、インターネットの活用法を研究し、学生の皆さんの学習に役立つ方法を探っていきます。全国の大学にeラーニング教材を配信するUPO-NETプロジェクトも進めています。

メディア、ICTを活用して放送大学と全国の大学の連携を強め、日本の教育の向上に貢献しようと活動を進めています。

『卒業研究』は広がっていった

教養学部選科履修生 増原 久子
島根学習センター所属

『卒業研究』のあとがきを書き終えたのは70歳の誕生日の前日であった。平成17年の秋のことである。

話はそれから5年前にさかのぼる。当時出雲市女性センターのセンター長を務めて5年目になっていた。自分の年を考えるともう今しかないと決心して職を辞し、3年次編入の放送大学全科履修生となった。これで勉強に専念できると思ったのも束の間で、丁度市町村合併の時期でもあり、二つ、三つ公職を持ちながら、「2足の草鞋」を履くことになってしまった。

何で今さらその年で大学か…と言われそうだが、実は私には二つのコンプレックスがあった。何十年もの間、心に掛かっていたことである。一つは“お父さんいない”コンプレックス。父は私が3歳の時に病死したが、これは致し方のないこと。二つ目は“学歴コンプレックス”。母の細腕では、2歳年下に弟もいることだし、希望の大学に進むことはできなかった。女の子は学問よりも早くお嫁に行ったほうがいと祖母は言った。そんな時代である。

それでも何とか2年間の大学生活を終えて、社会へ出て2年間就職につき、まもなく結婚。仕事はやめて3人の子育てと夫の両親の介護がほぼ同時進行で20年続いた。途中で私立大学の通信教育を始めたがすぐに挫折してしまった。今思っても無理な話である。

その後子どもはそれぞれに結婚し、両親も見送り夫と2人の生活になった。夫の応援もあり平成13年4月から放送大学3年次に入学し、4年半かけて単位を修得した。生活と福祉専攻で高齢者福祉、地域福祉、家族関係などを中心に、衣食住に関する科目も広く学んだ。卒業も近づき卒業研究をどうするかを考える時期が来た。代わりに6単位を科目履修する方法もある。折角ここまで来た放送大学だもの、もうひとふんばり頑張ってみようと思うのがどうも私の性分らしい。しかしテーマをどうするかで迷った。自分自身60代後半となって、高齢者福祉に関することにしようか。それとも当時しきりに話題となった少子化問題にしようか思案中だった。そのころ電車の中で私の座席の真ん前で1冊の本を広げて揺られている男性の姿があった。本の題名は『スウェーデンはなぜ少子国家にならなかったのか』、すぐにそれをメモして帰り本を手に入れた。電車の中で私の前にたまたま立っ

くれたその男性に感謝したい。本の影に隠れてとうとうお顔も見えず、そのままになってしまった。どなたか分からないがお会いしてお礼が言いたい。おかげで私の卒業研究のテーマは『少子化を考える～女性が子どもを産まなくなったのはなぜか～』となった次第である。

卒業研究の内容について少し触れておこう。少子化といってもいろいろな要因があり、なかなかテーマが絞られず、研究を深めることが難しかった。ひとつだけ特記すべきは聞き取り調査のことである。松江市の未婚の働く女性5名（20歳代後半から30歳代）に集まってもらい、仕事と結婚について語ってもらった。まずは仕事を続けて、その先に結婚もありかという女性たちであった。研究は全体的には文献を読み進み、私なりに自分の意見も入れてまとめていったということである。本部での発表会では資料を配布して口頭のみで発表したが、島根学習センターでははじめてパワーポイントを習って作成し発表した。

いよいよ卒業証書・学位記の授与式が近づいてきた。最初は「おとうさんも一緒に式に行きましょうよ。娘も東京にいることだし。」と話しながら、夫も私も上京を楽しみにしていた。しかし夫の病気が進行して、本部の卒業式には二人とも参加できなかった。立派な卒業証書・学位記はベッドで横になっている入院中の夫の枕辺に届けた。「おとうさんありがとうね。」と、喜びを分かち合ったことは忘れられない。それは立派な卒業証書であった。数ヶ月して夫は他界した。

今、平成20年の秋、出雲市は『全国男女共同参画宣言都市サミットinいずも』を開催する。その2日目第6分科会でコーディネーターを務めることになった。テーマは『出雲地域の子育て環境～育児休業に視点をあてて～』であり、私の卒業研究が大いに役立ちそうである。

卒業後は選科履修生として英語を勉強中である。中でも昨年履修した『英語Ⅱ～The Book of Tea～』は大変興味深く読むことができた。岡倉天心が100年以上も前にアメリカへ渡り、しかもそれを英語で書いて、東洋の文明を西洋諸国へ伝えようとしたのだ。今続けている英語の科目もきっとどこかで役に立つことがあるだろうと信じて励んでいる。私はまもなく74歳を迎える。



北京で学術協定を結びました

放送大学は、2009年5月7日中国北京市内の中国中央広播電視大学（C CRTVU）に於いて、同大学と学術協力及び交流に関する協定を締結しました。

この協定締結により、同大学との教職員の交流、教育コンテンツの共同開発及び利用、教育に関する情報、学術資料及び教育や研究に関する出版物の交換が可能となりました。今後、この交流協定に基づいた活動が積極的に展開され、具体的な成果が形になることが期待されます。

なお、この調印により、本学が協定を締結した世界の大学は、アサバスカ大学（カナダ）、空中大学（台湾）、瀋陽市広播電視大学（中国）、イギリス公開大学（英国）、韓国放送通信大学校（韓国）、中国中央広播電視大学（中国）の6大学となりました。



教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生 募集

広報課・学生課

平成21年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

| | |
|----------|----------------------------|
| 出願期間 | 平成21年6月1日(月)～平成21年8月31日(月) |
| 合否通知等 | 平成21年6月中旬～平成21年9月中旬 |
| 学費の納入 | 平成21年6月中旬～平成21年9月末 |
| 入学許可通知 | 平成21年7月上旬～平成21年9月末 |
| 印刷教材等の配送 | 平成21年8月下旬～平成21年9月末 |
| 授業開始 | 平成21年10月1日(木) |

・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介ください、入学をお薦めいただくようお願い申し上げます。

また、平成21年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成21年度第2学期以降も引き続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学科が割引になります。

・出願締切日は平成21年8月31日(月) <必着>です。



大学院文化科学研究科修士全科生 募集

教務課

放送大学大学院文化科学研究科では、平成22年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成22年度修士全科生学生募集要項配布開始…平成21年6月12日(金)

| | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 出願期間 | 平成21年8月21日(金)～平成21年9月11日(金)18:00(必着) |
| 第一次選考(書類審査)合否通知 | 平成21年10月9日(金)発送 |
| 第二次選考(筆記試験) | 平成21年10月25日(日) |
| 第二次選考(面接試験) | 平成21年11月21日(土)～平成21年11月22日(日) |
| 合否通知等 | 平成21年12月18日(金)発送 |
| 学費の納入 | 平成22年3月上旬～平成22年3月中旬 |
| 入学許可書・印刷教材等の配送 | 平成22年3月中旬～平成22年3月下旬 |
| 平成22年度授業開始 | 平成22年4月1日(木) |

・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。

・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方※が出願できます。

・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。

・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、その後本学大学院に修士全科生として入学した場合、原則として大学院の修了要件として認められます。

※本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、平成21年7月24日(金)～8月4日(火)です。詳細は募集要項をご覧ください。

編集後記

世界中を人、モノ、カネがかけ回るだけでなく、感染症も短時間で多くの国の人々の生活を脅かすこの頃です。2009年の新型インフルエンザの今後の展開を予測するのは難しく、休養、栄養に加えてストレスマネジメントの為の保養によって免疫力をつける事が大切だといわれています。

放送大学の学生さんは、年齢、性別、職業等多様ですが、人間としての免疫力が高いという共通点があります。単位認定試験での悪戦苦闘、長時間の面接授業をこなす忍耐力、孤独で手探りの学習等、一見するとストレスにみえることが、確かな教材との相乗効果で堅牢な幹を育てています。

このオン・エアで紹介されている学位記授与式での誇らしい笑顔、各地の学習センターのサークル及び同窓会のいきいきとした活動、エッセイコンテスト応募作にみる学びの輝きこそ、世界中に広げたいと願うことです。(松村祥子)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員 (平成21年度)

| | | | |
|--------|------------|-----|-----|
| 委員長 | 教授 | 松村 | 祥子 |
| 委員 | 准教授 | 岡崎 | 友典 |
| | 教授 | 鈴木 | 基之 |
| | 准教授 | 島内 | 裕子 |
| | 准教授 | 二河 | 成男 |
| | 千葉学習センター所長 | 宮崎 | 清 |
| 編集事務担当 | | 総務部 | 広報課 |



放送大学

<http://www.u-air.ac.jp/> ISSN 1343-3369